

# あい環報

一般社団法人 愛知県環境測定分析協会



2026/1/1

会報 第166号



## 「2700mの雲海」

第7回 写真コンテスト 四季部門 「銀賞」  
大里 琉喜 氏 (株式会社 愛研)

撮影地 : 長野県安曇野市 (北アルプス)  
撮影日 : 2022年9月17日 AM5時  
標高約 2700m、燕山荘から望む一面の雲海

### 目次

新年の挨拶	2
委員会報告	3
「災害緊急時合同訓練」報告	4～5

「精度管理研修会②(中堅実務コース)」受講報告	6
「施設見学会」報告	6～8
事務局からのお知らせ	8

## 四季折々

2025年も様々な出来事に彩られた一年でした。

世界に目を向けますと、1月にはアメリカでトランプ新政権が発足し、相互関税対策が始まりました。6月には隣国韓国でイ・ジェモン新大統領が就任し、10月には日本で高市早苗新総理が誕生するなど、政治情勢は矢継ぎ早に変化しました。国内外での動きに、改めて世界の変化の速さを感じた一年でもありました。

自然界では、日本各地で局地的な集中豪雨が発生し、夏は40℃近い猛暑や酷暑に見舞われました。秋は短く、あっという間に冬へ突入したような天候が続き、野生動物の出没による事故も各地で報道されるなど、気候変動や環境の影響を身近に感じる一年となりました。

スポーツ界では喜ばしいニュースが続きました。日本人選手3名が所属するロサンゼルス・ドジャースがワールドシリーズで優勝したほか、サッカー日本代表は2026年

ワールドカップ本大会への出場を決め、史上初の3か国(アメリカ、カナダ、メキシコ)共同開催で8大会連続出場という快挙を成し遂げました。Jリーグ創設前からのファンの筆者としても、この成果は格別で、今年6月の大会を楽しみに待っております。

2026年の干支は『丙午』です。火の要素を二重に持つことから、情熱や強さを象徴する年とされています。ちなみに60年前の1966年は、新生児の出生数が前後の年よりかなり少なかったと言われています(迷信が原因です)。

2026年は、皆様がこのエネルギーを力に変え、困難に打ち勝ち、実り多い一年を過ごされることを心より祈念いたします。サッカー日本代表の躍進も、共に応援してまいりましょう。

文責：柳下 武己

\*\*\*\*\*

## 年頭のご挨拶

\*\*\*\*\*

一般社団法人

愛知県環境測定分析協会

会長 林 辰哉



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、平素より協会の事業運営に多大なるご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。令和8年の新春を迎えるにあたり、年頭のご挨拶を申し上げます。昨年を振り返りますと、当協会にとって実り多い一年でありました。環境計量士等研修会、精度管理研修会、新任者研修会、SOP研修会といった教育研修事業は、コロナ禍前の水準を超える参加者数となり、技術者層の広がり活性化を実感する一年となりました。共同実験についても水質を中心に例年通り実施し、会員事業所の分析精度の向上と、データの信頼性確保に大きく寄与しました。また、委員会活動では、総務委員会を中心に各委員会が連携し、研修内容の見直しや会報誌の充実、会員交流機会の創出など、協会運営の基盤強化が進みました。さらに会報誌「あいかんきょう」についても内容の幅が広がり、多様な視点から環境測定・分析の魅力を発信できた一年であったと感じております。

これらの成果は、会員の皆様一人ひとりの取組と協力の積み重ねによるものであり、改めて深く感謝申し上げます。こうした昨年の取り組みを踏まえ、今年は「技術力の継続的向上」と「協会活動のさらなる発展」を重点に据えたいと考えています。近年大きな関心を集めているPFASへの対応や、JIS規格の改訂、計量証明事業所に求められる品質保証体制の高度化など、外部環境はこれまで以上に専門性とスピードを求めています。協会としては、最新動向を捉えた研修プログラムの拡充、技術課題の共有の場づくり、共同実験のテーマ見直しなど、会員の皆様の実務に直結する支援をより一層強化してまいります。

また、人材の確保・育成が業界共通の課題となる中で、若手が成長を実感できる研修体系の整備、中堅層のステップアップ支援、品質管理担当者向けの学び直し機会の提供など、多段階のキャリア形成を後押しする協会としての役割をさらに発展させる予定です。あわせて、委員会活動や会報誌等を通じて、会員同士の交流や技術情報の共有がより活発になるよう、運営のさらなる改善にも取り組んでまいります。

今年が、会員の皆様にとって飛躍の一年となりますことを心より祈念するとともに、本年も変わらぬご支援をお願い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

令和8年元旦

## 新春を迎えて

愛知県知事

大村 秀章



\*\*\*\*\*

あけましておめでとうございます。

新たな年が、県民の皆様にとりまして素晴らしい1年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年7月、ついに、世界トップレベルのグローバルアリーナ「IGアリーナ」がグランドオープンを迎えました。

また、昨年は、「ジブリパーク」が開園から3年を、「STATION Ai」がグランドオープンから1周年を迎えたほか、テクノロジーの祭典「TechGALA Japan 2025」、愛知万博20周年記念事業「愛・地球博20祭」、3年に1度の国際芸術祭「あいち2025」を開催するなど、国内外から多くの人が愛知を訪れ、賑わいと笑顔に溢れた1年となりました。

「ジブリパーク」や「STATION Ai」を始め、これまで積み上げてきた愛知の力と、「IGアリーナ」など新たに加わった力を原動力として、世界と大交流しながらダイバーシティを生み出し、愛知の更なる飛躍に繋げてまいります。

さて、今年は、9月にアジア最大の平和とスポーツの祭典「第20回アジア競技大会」が、10月にはアジア最大の障がい者の国際総合スポーツ大会「第5回アジアパラ競技大会」が、いよいよ開幕を迎えます。

両大会は、アジア各国・地域との交流を深めるとともに、愛知・名古屋の魅力を世界に発信する絶好の機会でもあります。

県民の皆様と一緒に、両大会を大いに盛り上げ、愛知を更に元気にしてまいりたいと思いますので、一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

2027年の「アジア開発銀行年次総会」、2028年の「技能五輪国際大会」など、今後も、愛知を元気にし、日本を元気にするビッグプロジェクトが目白押しです。

目まぐるしく変化する世界の情勢に的確に対応しながら、これらのプロジェクトを着実に進め、日本の成長を牽引してまいります。

もちろん、こうした取組とあわせ、喫緊の課題である人口減少・少子化対策を始め、社会基盤整備や農林水産業の振興、教育、女性の活躍、医療・福祉、感染症対策、環境、雇用、多文化共生、防災・交通安全、東三河地域の振興など、県民の皆様のご生活と社会福祉の向上、次代の愛知を担う「人づくり」にも全力を注いでまいります。

引き続き、「日本一元気なあいち」、県民の皆様すべてが豊かさを実感できる「日本一住みやすい愛知」、すべての人が輝き、未来へ輝く「進化する愛知」の実現を目指し、全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

2026年元旦

\*\*\*\*\*

## 委員会活動報告

\*\*\*\*\*

### ◇ 総務委員会

第4回の総務委員会を12月12日に開催し、次年度向けの「環境に関する喚起標語」の募集要領について検討しました。次年度の標語テーマは「環境技術の価値向上」です。これは端的に言えば、「価格転嫁」を業界として進めていこうというメッセージです。測定・分析の技術は、社会の信頼と安心を支える重要な仕事です。その価値を正しく伝え、正当な対価を得ることで、技術者の育成や働き方改革にもつながります。今年の標語では、「測定技術の価値」や「価格転嫁」を前向きに表現する言葉を期待しています。入賞者には賞状と副賞が贈られ、特選作品は次年度の協会公式ポスターに採用させていただきます。応募要領をご確認の上、1月23日までにご応募ください。結果は会報誌第167号で発表いたします。また、3月には「景況調査」を予定しております。お手数ですが、アンケートにご協力ください。

総務委員長 大場 恵史

### ◇ 企画・広報委員会

昨年10月24日に施設見学会及び懇親会を開催しました。会員33名（委員7名）の方々にご参加いただき盛況のうちに閉会することが出来ました。見学会の様様につきましては、本誌に掲載しておりますので、ご一読して下さい。

10月20日に会報誌165号を発刊しました。

そして、引き続いて会報誌166号（本誌）の編集委員会を開催し、編集作業を進めました。

今年は2月6日に令和7年度第4回目の委員会を開催いたします。令和8年度社員総会特別講演会及び環境月間講演会の講師候補を選定、また会報誌167号（4月発刊）の編集・スケジュール等を確定する予定です。

協会の行事、広報活動に於いては、会員皆様のご協力が必要になります。本年も積極的なご参加とご支援を宜しくお願い申し上げます。

企画・広報委員長 石井 良孝

### ◇ 教育研修委員会

令和7年11月13日にオンライン形式にて受講者59名を集め環境計量士等研修会を開催しました。①「解体等工事の石綿飛散防止対策に係る大気汚染防止法の規制」では愛知県環境局環境政策部様からご講演いただきました。続いて②「土壌中のナノプラスチック濃度の測定に向けてー現状と課題ー」では国立研究開発法人産業技術総合研究所 ネイチャーポジティブ技術実装研究センター土田恭平様から、③「環境基準等の設定に関する資料集についてー基準値設定の背景となるリスクの概念と水質に関するリス

ク評価を中心にー」では国立研究開発法人国立環境研究所 環境リスク・健康領域 環境リスク科学研究推進室 室長大野 浩一様から、賛助会員 ジーエルサイエンス株式会社様からは④「PFAS分析、前処理の為のポイントと注意点」について学びました。

令和8年1月30日にはSOP研修会を予定しています。多数のご参加をお待ちしております。

昨年は各研修会へ愛知県外を含め大変多くの方にご参加いただきました。心より御礼申し上げます。本年も引き続き研修会の充実を図り、より多くの方に参加いただけるよう努め、会員の皆様のレベルアップに貢献したいと考えております。

教育研修委員長 牛古 誠

### ◇ 技術委員会（水質、大気、騒音）

#### ☆水質・土壌ワーキンググループ

今年度は模擬排水中の全窒素・亜硝酸性窒素を対象とした共同実験の結果検討会を、12月12日に対面とオンラインのハイブリット形式で開催しました。その後、グループディスカッションも実施し様々な意見交換が行われていました。アンケートのご協力をお願いします。

#### ☆大気・臭気ワーキンググループ

今年度は、令和8年1月27日に勉強会を開催します。近江オドエアーサービス株式会社の方に講師を依頼し、臭気測定に関する内容で進めていますので、ご参加ください。

#### ☆騒音・振動ワーキンググループ

今年度は、令和8年1月～2月ごろに勉強会を開催予定です。低周波音に関する内容で予定しています。

技術委員長 伊藤 諭志

### ◇ 災害緊急時対応委員会

災害緊急時対応委員会では、10月28日に「大規模地震による災害を想定した有害大気汚染物質調査の訓練」に参加しました。また、11月6日には愛知県環境局資源循環推進課主催の「令和7年度災害廃棄物処理図上演習」に参加いたしました。

「大規模地震による災害を想定した有害大気汚染物質調査の訓練」は、当協会と災害協定を締結している愛知県、豊橋市、豊田市、岡崎市、一宮市の5自治体での同日開催という形で実施いたしました。この訓練の詳細につきましては本号で別途掲載しておりますのでご覧いただけると幸いです。

災害緊急時対応委員会では10月から11月に活動が集中しましたが、委員と会員皆様のご協力により円滑に活動が進められましたことに感謝いたします。引き続き、災害協定に対して迅速に確実に対応できるよう取り組んで参りますので、皆様のご協力をお願いいたします。

災害緊急時対応委員長 林 昌史



\*\*\*\*\*

## 大規模地震による災害を想定した有害大気汚染 物質調査の訓練を実施しました

災害緊急時対応委員長 林 昌史

\*\*\*\*\*

令和7年10月28日に愛知県環境局、豊橋市環境部、豊田市環境部、岡崎市環境部、一宮市環境部と当協会による災害時における環境調査訓練を実施いたしました。本訓練は、愛知県と当協会で開催した平成28年のアスベスト大気環境調査訓練から数えて10回目、中核市が参加しての参加訓練としては8回目(表1)となりました。

表1 これまでの訓練実績

実施年度	訓練内容
平成28年	アスベスト大気環境調査
平成29年	空間放射線量調査
平成30年	有害大気汚染物質(ベンゼン、トルエン等)
令和 元年	アスベスト大気環境調査
令和 2年	河川水環境(重金属類、ダイオキシン類等)
令和 3年	河川水環境(重金属・農薬等の健康項目)
令和 4年	アスベスト大気環境調査
令和 5年	河川水環境(重金属・農薬等)
令和 6年	河川水環境(重金属類)
令和 7年	有害大気汚染物質(トルエン・水銀等)

本訓練は、「災害時における化学物質等の調査に関する協定」に基づくもので、訓練の内容は、大規模地震発生後の2週間後に余震が発生し、県内事業所から有害大気汚染物質が漏出した状況を想定し、災害時における大気中と焼却炉排出ガスの有害物質に関する環境調査の訓練を実施したものです。

今回の訓練の実施場所は、愛知県では半田市東洋町の大気測定局、豊橋市では豊橋市役所市民広場、豊田市では豊田市加納町の北部大気測定局、岡崎市では六斗目橋周辺、一宮市では一宮市環境センター焼却炉施設の計5か所で実施しました。訓練の内容は、大気及び排ガス中の有害物質とし、地域の実情にあわせて自治体ごとに調査対象項目の選定が行われました。また、当協会から訓練に参加する会員の選定は、災害協力認定会員(44会員)への事前アン

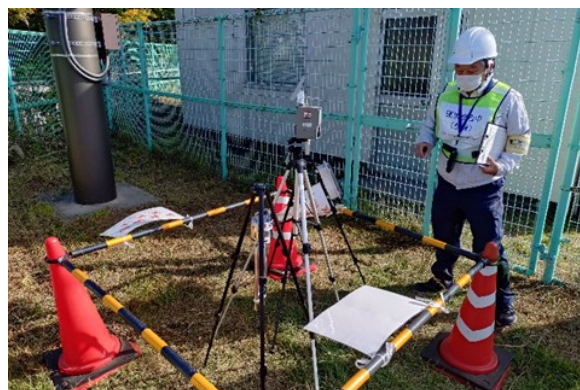
ケート結果から、大気関係での対応が可能な会員5会員(表2)を選定させて頂きました。

また、訓練を実施する5会員以外にも自治体との実施に向けた協議から現地調査、結果報告までを見学するオブザーバー参加も受け付け、これにも4会員の参加を頂きました。訓練実施会員とオブザーバー参加会員全9会員はいずれも過去に参加を頂いた会員ではありましたが、初めて参加する職員の方もいて、より実地体験を増やすことができたのではないかと思います。

訓練当日は午前9時から順次、訓練を開始し林会長の発令により当協会事務局内に「災害対策室」が設置され、林会長と近藤事務局長が災害対策室に駐在し全会員に向けて災害対策室設置を周知しました。

その後、5自治体それぞれから災害対策室に調査要請の連絡が入ると災害緊急時対応委員にも要請が伝えられ、訓練を実施する会員の選定(事前に選定済み)と調査を実施する旨の連絡を行いました。

その後、訓練参加会員、オブザーバー会員および災害緊急時対応委員は担当する調査地点に出向き、自治体職員と合同で作業前のミーティングを行い、大気および排ガスの試料採取を行いました。



訓練実施状況(豊田市:豊田市北部大気測定局)

調査の終了後、自社にもどり調査結果(模擬の調査結果)をとりまとめて電子メールで各自治体と当協会事務局に送信した上で電話による調査結果の連絡を行いました。それを受け、当協会事務局から5自治体へそれぞれの要請に基づく調査の完了報告を行い、訓練は終了しました。

表2 訓練参加会員

自治体名	訓練地点	訓練参加会員	オブザーバー会員
愛知県	半田市東洋町測定局	(株)愛研	—
豊橋市	豊橋市役所・市民広場	中外テクノス(株)中部支社	(株)イズミテック
豊田市	豊田市北部大気測定局	(株)環境科学研究所	(株)テクノ中部
岡崎市	六斗目川・六斗目橋	(一財)東海技術センター	日本空調サービス(株)
一宮市	一宮市環境センター	(株)ユニケミー	サンエイ(株)

本訓練の実施は今回で10回を数えますが、訓練実施方法の詳細について訓練参加会員と自治体が直接メールや電話等で打合せを行うことで進めています。その協議の間は自治体と訓練参加会員とのやり取りを災害緊急時対応委員および事務局でも共有し、必要に応じて協会としての対応を行っており、この点でも実際に近い形での進行ができたのではないかと考えております。また、今回は調査対象が一般大気と焼却炉の排ガス採取で採取対象が多様であった点でも意義のある訓練になったのではないかと考えております。



訓練実施状況（一宮市：一宮市環境センター）



訓練実施状況（岡崎市：六斗目橋周辺）



訓練実施状況（愛知県：半田市東洋町大気測定局）



訓練実施状況（豊橋市：豊橋市役所・市民広場）

また、訓練当日には豊橋市では東海テレビと東愛知新聞、岡崎市ではミクスネットワーク(ケーブルテレビ)の取材があり関心の高さを感じたのに加え、本協定の社会的意義と計量証明事業者としての使命を強く実感しました。

災害協力認定会員の中で大気測定対応が可能な会員は少ない状況の中でしたが、積極的にご参加頂きました会員の皆様には感謝申し上げます。

また、本訓練の計画と実施にあたりましては、愛知県環境局環境活動推進課様、豊橋市環境部環境保全課様、豊田市環境部環境保全課様、岡崎市環境部環境保全課様の全面的なご協力を頂いたことに深く感謝を申し上げます。

災害緊急時対応委員会では、今回の訓練で得られた知見を今後に生かすとともに、災害協力会員の結束を固め、有事に備えたいと思います。引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



令和7年10月29日

東愛知新聞 記事



\*\*\*\*\*

## 「精度管理研修会② 【中堅実務コース】」受講報告

株式会社コスモ環境衛生コンサルタント

中村 美弥尾

\*\*\*\*\*

9月18日から19日に開催されました「精度管理研修会②【中堅実務コース】」にオンラインで参加しました。

環境法令の知識やサンプリング・装置に起因する精度管理、測定分析データを扱う際の統計処理・数値管理を理解することは、分析技術者にとって必須になると思い、今回の講習会の受講をしました。

研修会は、「環境法令について」、「サンプリング及び環境分析における精度管理」、「機器分析の精度管理」、「不確かさの検出」、「数値の扱い方、下限、妥当性及び基本統計量」、「相関分析・回帰分析」の6部構成で行われ、Excelを用いた統計処理も実習しました。

「環境法令について」では、法令の基礎知識、環境法令の種類、情報の入手法について学びました。法令の用語を知り、適切な法令の選択、最新の情報を入手し発展させることが、分析者として基本になると思いました。

「サンプリング及び環境分析における精度管理」では、各試料のサンプリング方法の確認、環境分析の精度管理体制と運用について学びました。目的にあった分析をするため、機器・容器・保存処理方法などの選択、また、日常的に内部精度管理の実施などの重要性を感じました。

「機器分析の精度管理」では、主な分析機器の精度管理の各種ポイントや検出限界の確認の仕方、点検と管理を数値化し具体的に示すことにより機器の変化に気づきやすくなるなどを教えていただきました。

「不確かさの検出」では、不確かさの合成、確率分布の種類や特性、評価の手順について学びました。不確かさを確認するため細かくピックアップが重要ではあるが、必要なレベルに合わせていくことも大切と感じました。

「数値の扱い方、下限、妥当性及び基本統計量」では、数値の丸め方や、統計量、妥当性の解析方法について、Excelの分析ツールを用いて実習をしました。基本統計量など、客観的に統計的手法で判断するために理解を深める必要性を感じました。

「相関分析・回帰分析」では、相関係数の検定方法、回帰分析の用語や検定方法について学びました。また、Excelを使って相関関係、回帰分析の検定法を実習しました。相関分析や回帰分析の課題を通して、とても勉強になりました。

今回の研修会で、法令など基礎となるものから、Excelを用いた実践的なものまで広く学べました。この得た知識を生かし、分析結果の信頼性を高めることが出来るよう励みます。

\*\*\*\*\*

## 「施設見学会」開催報告

令和7年10月24日開催

企画・広報委員会 佐藤 勇人

\*\*\*\*\*

10月24日、名古屋市港区にある「名古屋港水族館」にて、愛環協主催の施設見学会が行われました。

参加は協会所属の13社、33名でした。名古屋港水族館は入口が2階のチケット売り場横にあり、参加者は入口付近に13時に集合しました。外気温は20℃で、空は曇っていましたが、降雨はありませんでした。

時間通りに参加者全員が集まり、企画・広報委員会の石井良孝委員長から、冒頭挨拶がありました。

当日のスケジュールは、①13時30分から名古屋港水族館の職員の方による環境学習プログラムの講演を聴き、②14時45分から2時間の館内自由行動、③16時45分解散の後、④18時より参加希望者が金山駅付近で開催の懇親会に出席、という流れでした。

冒頭の委員長挨拶の後、すぐ館内へ入場し、水族館の雰囲気を感じながら、南館1階の「レクチャールーム」へ向かいました。このレクチャールームにて、環境学習プログラムの聴講をします。

講師は、名古屋港水族館勤務35年というベテラン職員である、学習交流課の加藤浩司氏でした。名古屋港水族館のオープンが1992年10月で、今年で33年目になるのに対し、オープン1年半前から雇い入れられて活躍している、水族館のエキスパートです。マグロなどの魚の係を8年、ペンギンの係を4年、それ以降はずっと「人間の係」を務めていらっしゃるそうです（言わば「環境教育」）。

余談ですが、名古屋港水族館は1992年10月29日に南館が開館し、2001年11月1日に北館が開館しています。南館開館翌年の1993年に年間入館者数が約291万人に到達。北館のオープン後は年間160～220万人で推移しており、コロナ禍以前の2019年度には開館以来初となる「3年連続200万人超え」を達成しました。直近の入館者数は、約240万人で、その数は、沖縄の「沖縄美ら海水族館」、大阪の「海遊館」に次いで全国3位



です。展示している水槽の総水量や建物の広さをして、実は、「日本最大の水族館」が当名古屋港水族館になります。

今回の講演のテーマは、「ウミガメと海洋プラスチック」というタイトルでした。人間が出すプラスチックゴミが、やがて海に流れ出て、絶滅危惧種であるウミガメがおなかいっぱいまでそのゴミを食べてしまうことで、死に至ってしまうという内容でした。詳細は以下の通りです。

人間が街で地面に放り捨てたプラスチックゴミは、風に漂い、川に流され、やがて海に出てしまいます。そのゴミは、例えばウミガメが産卵のために現れる砂浜に行き着いてしまうこともあります。卵からかえった赤ちゃんガメが、そのゴミが障害となって、卵があった穴から地上に出て来られなくなってしまうという脅威にもなります。

また、海岸に流れ着いた、ウミガメの死体の胃の中を調べてみると、人間が捨てたプラスチックゴミが、胃の中いっぱいに出てくるケースもあります。実際に直接の死因を特定することは困難なのですが、おなかからプラスチックゴミが出てくるという事実はわかっているのです。

ゴミ自体に毒などの害があって食べたらずぐ死ぬ、というわけではないと考えられていますが、海中を漂うゴミに汚れが付着することもあり、生物にとって有害な汚れが付いてしまうと、それが死因となる可能性があります。

さらには、おなかでゴミがいっぱいになると、通常のエサを食べたときの消化・吸収に悪影響が出てしまう、という危険性もあります。

ウミガメは、「エサ」と「エサでないもの」の区別がつかえません。目の前に「何か」があったら、とりあえず噛みついてみる、とりあえず飲み込んでみる、というのが彼らの食事の仕方なのです。「プラスチックゴミは食べちゃダメだ」という学習もしません。

海洋を漂うプラスチックゴミは、ほとんどは「陸」から出て来ます。ちゃんとゴミ箱に捨てなかったペットボトルや、スーパーのレジ袋、そういうものが風で舞って、川から海へと流れていきます。また、大雨が降ったときに、雨とともに排水溝から流れ出ていきます。

「街中でペットボトルが転がっている」という状況は誰も目にしたことがあると思いますが、誰かがそれを拾って、ゴミ箱に入れない限り、そこにプラゴミが転がっている限りは、いつかはそれが海に出てしまうという可能性があるということです。そして、ウミガメがそれを食べてしまうというわけです。

2010年にCOP10が名古屋で開催されたことや、2019年より名古屋市が「SDGs未来都市」に選定されたことなどを受け、名古屋港水族館では環境問題や環境教育をメインテーマとした常設の展示室「エコ・アクアリウム〜海の未来を考えよう!〜」を、2020年に南館3階に設置しました。この展示室に、ウミガメのおなかから出て来た「プラスチックゴミ」や、「マイクロプラスチック」の実物が展示されています。



海に流れ出たプラスチックゴミは、紫外線の影響等で、だんだんと細くなっていきます。しかし、細かくなっても、「プラスチックゴミ」であることには変わりありません。

直径5mm以下になった微細なプラスチックを「マイクロプラスチック」と呼びます。

マイクロプラスチックは、ウミガメであつたりイルカであつたりが食べ、さらに小さなものは魚などが食べてしまいます。今では、ものすごく細かいサイズまで小さくなったプラスチックが、海の中を漂いながら生きているプランクトンの中から出てくるという時代になっています。沈む性質のプラスチックにおいては、深海生物のおなかの中から見つかったという状況もあります。プラスチックゴミ問題というものはとても根が深いものなのです。

だからこそ、私たち人間は、ゴミを減らさなければなりません。「プラゴミを減らすための3R」の意識が大切です。「リデュース（Reduce：使う量を減らす）」、「リユース（Reuse：繰り返し長く使う）」、「リサイクル（Recycle：再生して利用する）」です。

この3Rと呼ばれる活動をしっかり意識できれば、海に流れ出てはいかないはずですよ。

そうすれば、ウミガメは絶滅危惧種ではなくて、ちゃんと人間と共存できる日がやってくるのではないのでしょうか。

以上の内容の講演を聴いて、目の前のごみが、世界中の海を漂う可能性があるという現実を痛感しました。今まで、会社の活動などで定期的に、自分の身の回りのゴミ拾いをしておりましたが、このお話を伺った後には、より精を出してゴミを拾おうと心に誓いました。



聴講の後は、参加者全員で集合写真を撮影し、その後は2時間の自由行動となり、思い思いに館内を巡りました。

施設見学会後は、30名の参加者が金山駅付近のイタリアンダイニングに移動し、懇親会を行いました。楽しく打ち上げ食事をを行い、この日の締めといたしました。

#### ◇ 参加者からのアンケート結果（26件の回答）

##### 1. 見学先（名古屋港水族館）について



- ①大変良かった：13名
- ②まずまず良かった：9名
- ③普通だった：4名
- ④あまり良くなかった：0名
- ⑤良くなかった：0名

##### 2. 懇親会について



- ①大変良かった：14名
- ②まずまず良かった：8名
- ③普通だった：1名
- ④あまり良くなかった：0名
- ⑤良くなかった：0名
- ⑥不参加：3名

#### 事務局からのお知らせ

大野 哲様 計量関係功労者経済産業大臣賞受賞



当協会監事（前会長）大野哲様（(株)イズミテック）が、「2025年度計量関係功労者経済産業大臣賞」を受賞されました。

大野様は、平成21年から当協会の理事、令和元年からは会長として協会運営の中心的役割を担い、特に教育研修の充実や災害時対応体制の整備に尽力され、また、一般社団法人日本環境測定分析協会でも、理事および中部支部長として全国的な活動に携わり、環境計量の発展に大きく貢献されました。

誠にありがとうございます。今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

#### 【大気・臭気分野の勉強会】

令和8年1月27日（火）

Niterra 日本特殊陶業市民会館

#### 【SOP（標準作業手順書）研修会】

令和8年1月30日（金）

Niterra 日本特殊陶業市民会館

#### 編集後記（渡部 すみれ）

新年あけましておめでとうございます。温暖化の影響で夏の暑さが年々厳しくなる一方ですが、こうして今年も、凜とした冬の空気とともに新しい年を迎えることができました。本号では、施設見学会の様子もお届けしています。33名の方にお越しいただき、他社の方との交流を通して、多様な視点や新たな気づきを得られた、実りある時間となりました。業界のさまざまな情報や活動を、今後も誌面を通してお届けしてまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

発行人 （一社）愛知県環境測定分析協会  
会長 林 辰哉

〒460-0022  
名古屋市中区金山1-2-4  
アイディエリア405号  
TEL：052-321-3803  
FAX：052-684-4238  
E-mail：aikankyo@nifty.com

編集 （一社）愛知県環境測定分析協会 企画・広報委員会

委員長：石井 良孝  
副委員長：柳下 武己  
委員：中野 雅則、日野 栄一、山本 浩明、  
長瀬 勝、松本 貴郁、佐藤 勇人、渡部 すみれ